

令和4年度（2022年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

商 法

B 日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和4年度（2022年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	商	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（15点）

次の事例を読み、[問い]に答えなさい。

X社（非公開会社、取締役会設置会社）の発行済株式（合計100株）は、Aが30株、Bが40株、Cが30株を保有していた。AはX社の代表取締役であり、B・CがX社の取締役である。

A・B・Cは友人関係にあったが、X社の経営をめぐってA・Bが対立するようになった。Aは、Cを自分の味方にするべく、X社の株式を50株発行する話を持ちかけた。Cは、X社の支配権取得を喜び、Aの提案に乗ることとした。

Aは、株主総会も取締役会も開くことなく、X社代表取締役としてCに対して50株の株式発行を行い（以下、「本件株式発行」という。）、CはX社株式50株の対価をX社に支払った。なお株式価格は公正な金額であった。

[問い]

後日、本件株式発行の事実を知ったBは、本件株式発行の効力を争いたいと考えているが可能か、請求の方法とその見通しについて、判例をふまえて論じなさい。

問題2（10点）

株主は、善管注意義務（会社法330条・民法644条）・忠実義務（会社法355条）違反を理由として、取締役の行為の差止めを請求する（会社法360条）ことができるか。結論と理由を8行程度で述べなさい。

なお、結論がどちらでも配点は変わらないが、結論のみを述べる答案には点を与えない。